

地域福祉推進のための

ボランティア・市民活動センター

自己評価『チェックリスト』

2004

2004年3月

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

全国ボランティア活動振興センター

目 次

1 . はじめに.....	3
2 . 「5 か年プラン」「強化・発展の指針」の基本的視点.....	5
3 . 第2次「ボランティア・市民活動推進5 か年プラン」基本構想と 「チェックリスト」項目の構造.....	6
4 . 本『チェックリスト』の使い方.....	7
チェックリスト・PART 1	
『センター活動推進に向けた具体的なプログラムづくり』	
多彩なプログラムの実施.....	10
福祉教育.....	13
小地域・まちづくり活動.....	16
地域の多彩な団体との協働・プラットフォーム提供.....	19
チェックリスト・PART 2	
『センターの運営体制づくり』	
財源.....	23
情報公開.....	25
広報宣伝.....	27
運営委員会と運営体制.....	29
職員.....	31
事務所・活動スペース・登録.....	34
評価結果の確認.....	36

1 . はじめに

「第2次ボランティア・市民活動センター5か年プラン」(以下「5か年プラン」)、
「社協ボランティア・市民活動センター強化・発展の指針」(以下「強化・発展の指針」)
は、全国の都道府県・指定都市、市区町村社協関係者の協力により2001年8月に策定・
提言されました。

全社協・全国ボランティア活動振興センターでは、この「5か年プラン」「強化・発展の指針」を、全国のボランティア・市民活動センター(以下「センター」)に関わる各種会議・研修等で積極的に普及を図るとともに、ここに示された今後のセンターの方向性を実現すべく推進を図ってきました。しかし、取り組みの成果を客観的に評価・測定する手段を持っておらず、全国のボランティア・市民活動センターに関わるみなさんからは、「何らかの自己評価手段がほしい」というご指摘が寄せられていました。

そこで本センターでは、「5か年プラン」「強化・発展の指針」の方向性をふまえた自己評価手段として『チェックリスト』を作成しました。各センターにおいて、この『チェックリスト』で各センターの強み・弱みを把握するとともに、その結果を職員間、センター運営委員会、そして社協理事会・評議員会などにおいて共有し、今後のセンター運営の方向性、重点的な取り組み方策、人材養成等に役立てていただくこととしました。

なお、『チェックリスト』作成にあたっては、「5か年プラン」「強化・発展の指針」とあわせて、「5か年プラン」「強化・発展の指針」策定の基礎となった「ボランティア活動推進7か年プラン」(1993年8月)も参考としています。

また、本『チェックリスト』は2004年版としておりますが、今後みなさんからのご意見もふまえ、今後一層使いやすい内容をめざしてまいります。みなさんのセンターにおいてご活用いただくとともに、活用された上でのご意見・ご感想をぜひお寄せくださるようお願いいたします。

2. 「5か年プラン」「強化・発展の指針」の基本的視点

「5か年プラン」「強化・発展の指針」では、大きく下記の4点を基本的視点として提言しています。

(1) 「ボランティア活動」と「市民活動」の一体的推進

社協は「ボランティア活動」と「市民活動」を一体的に推進します。

ここで言う「市民活動」とは、『市民の自発的意思による社会的活動』です。「ボランティア活動」と重なる部分が多くありますが、「市民活動」には、一般的に今まで「ボランティア活動」とは別と考えられてきた「自助的(セルフヘルプ)活動」「小地域活動」「自治活動」等、地域活動や有償の活動、NPO活動も含めた幅広い概念を指しています。

【例えば・・・】

今までの「ボランティアセンター」という名称も、「ボランティア・市民活動センター」として改称する等、より積極的に、幅広い「ボランティア・市民活動」を支援する機能が求められています。

(2) 「社会的マーケット」の開発

市民がみんなで活動を「創り出し - 支える」ことをしながら、社会的課題の解決に向かっていくことを、ある種の社会的マーケット(市場)の広がりにとらえ、共感する人々を獲得しながら新たな活動を積極的・能動的に開発していく視点が求められています。

【例えば・・・】

市民がみんなで活動を「創り出し - 支える」関係は、経済市場(マーケット)と同じ関係が見出せます。これらの関係により、必要な「人材」「資源」「資金」なども入ってきます。この関係は、「ボランティア」「市民活動」の推進を図るために大変重要です。

また「ボランティア」「市民活動」を推進するためには、活動を推進する立場・人々からの能動的な働きかけ(「マーケティング」)も必要です。

これからの「ボランティア・市民活動センター」は、これらの「応答関係」を作用させる環境・基盤づくりと、積極的な働きかけが必要です。それが「社会的マーケット」の開発です。

(3) 「自律」と「協働」の推進

さまざまな「ボランティア」「市民活動」を推進する個人・グループ・団体が、「自律」的に活動しつつ、「ボランティア・市民活動センター」は、これらの個人・グループ・団体の「協働事業」を促進するという視点が求められています。

【例えば・・・】

地域では、多様な活動の理念・使命（ミッション）・組織運営を持つグループ、団体が多様な「ボランティア」「市民活動」の実践を行っています。これはとても素晴らしいことです。

しかし、各グループ、団体それぞれでは、集められる情報、つながることのできる機関・団体、また提供できるサービスに限界があります。

これからの「ボランティア・市民活動センター」は、組織の公共性を活かし、多様な「ボランティア」「市民活動」団体の「協働」を図り、また「協働」のための舞台を用意し、支援を行う関係が求められています。

(4) 徹底したボランティア・市民主体のセンター運営

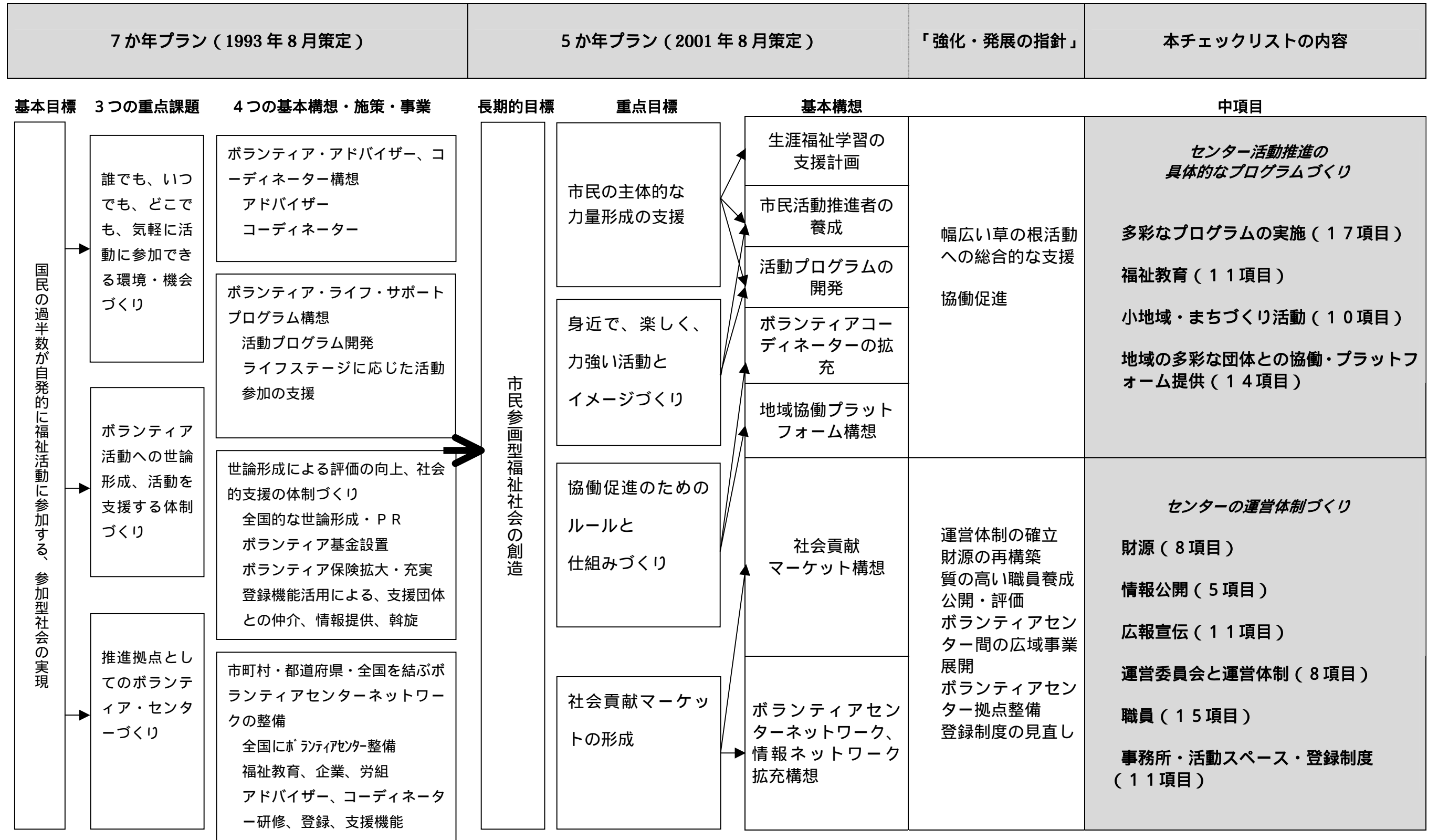
ボランティアセンター事業企画・運営への市民の参画を徹底し、開かれたセンターとするとともに、多様な学習機会、情報、自由に使える拠点・機材などを提供し、ボランティア・市民の主体的な活動を側面的に支援する視点が必要です。

【例えば・・・】

「ボランティア・市民活動センター」の運営委員会は、どのような方々が担っていますか。「福祉」に関わるボランティア・市民活動の関係者だけではなく「教育」「環境」など多様な分野から、多様な人材に参加していただき、幅広い視点で「ボランティア・市民活動センター」運営に参画してもらうこともできます。

市民がより使いやすい「ボランティア・市民活動センター」をめざし、夜間・休祝日の開設検討なども、今後の課題です。

3. 第2次「ボランティア・市民活動推進5か年プラン」基本構想と「チェックリスト」項目の構造



4. 本『チェックリスト』の使い方

この『チェックリスト』は、下記のように使っていただくことを想定しています。

STEP 1 到達度目標を参考に、自己評価チェック！

みなさんのセンターの業務内容、取り組み状況を『チェックリスト』の各項目に沿ってチェックします。

(1) 到達度目標（「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」）について

各小項目の左端には、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」三段階の到達度目標が記載されています。チェックの参考としてください。

- ・ホップ 「ボランティア・市民活動センター」で取り組むべき基本的な項目
- ・ステップ 「ボランティア・市民活動センター」において先駆的に取り組みを進める項目、または今後取り組みを進めることを検討すべき項目。
- ▼・ジャンプ 先駆的な取り組みとして評価できる項目。

(2) 自己評価（1～3）について

各小項目は、1～3の範囲で自己評価を行ってください。

- 3 積極的に取り組んでいる
- 2 取り組んでいる（取り組むことを検討している）
- 1 全く取り組んでいない（今後数年間、取り組みを予定していない）

自己評価の点数は、中項目ごとに集計し、A～Cに分類する

項目記入の際、みなさんのセンターの状況、チェックにあたって討議した内容があれば、その内容を自己評価右側の「みなさんのセンター状況・討議メモ」に記入します。



STEP 2 中項目のチェック結果を受けて、センターの弱み・強みを把握

チェック結果を受けて、中項目ごとに、みなさんのセンターの「強み」「弱み」を職員間で共有してください。

また、自己評価で「1」の記入があった小項目については、今後のセンター事業立案にあたって、今すぐ取り組めるもの、数年（2～3年）の間でできるもの、長期的な視点で検討するもの、を検討・整理してみてください。

STEP 3 レーダーチャートで、センターの強み・弱みを総合的に確認

中項目ごとに集計したA～Cの結果を、「レーダーチャート」に記入します。
ボランティア・市民活動センターの機能・役割に対するセンターの強み・弱みを総合的に確認することができます。



STEP 4 センター機能強化に向けた具体的な話し合い

チェック結果は、センター職員間、センター運営委員会、そして社協理事会・評議員会において、今後のセンターのあり方、運営の方向性を議論するための素材とします。

『チェックリスト』の取り組み結果の討議・検討イメージ

ボランティア・市民活動センター役職員での検討

ボランティア・市民活動センター役職員間における、センター運営の検討資料として役立つ。

ボランティア・市民活動センター運営委員会での検討

取り組んだ「チェックリスト」の結果、到達度を運営委員会に諮り、自らのボランティア・市民活動センターの強み、弱み、また地域のボランティア・市民活動団体とのつながりを検討する素材にする。

市区町村・社会福祉協議会内での検討

本チェックリストに記載されている項目は、ボランティア・市民活動センターとしての取り組みの他、社会福祉協議会全体としての組織・経営の視点から検討が必要な項目もあります。社会福祉協議会（役職員、理事会・評議員会など）での検討の素材として活用する。

都道府県指定都市・社会福祉協議会内での検討

都道府県・指定都市社協においては、各管内の市町村社協ボランティア・市民活動センターの取り組み状況、「5か年プラン」の実施状況を、本「チェックリスト」の結果をふまえながら把握するとともに、各市町村社協ボランティア・市民活動センターに対する業務支援、センター間の広域連携を進める参考資料としても活用する。

チェックリスト・PART 1

センター活動推進に向けた 具体的なプログラムづくり

多彩なプログラムの実施（17項目）

福祉教育（11項目）

小地域・まちづくり活動（10項目）

地域の多彩な団体との協働・プラットフォーム提供

（14項目）

多彩なプログラムの実施(17項目)

<ポイント>

ボランティア活動についての「狭いイメージ」から、「地域のさまざまな人々が楽しく交流し、新しいものを創り出す」というイメージをつくり、このイメージを具体化したプログラムを開発することが求められています。

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 地域住民が福祉や介護について体験学習できる機会(講座など)を提供している	3 2 1	
	2 地域の勤労者を対象にしたプログラム・研修を開発し、実施している(勤労者のボランティア講座、企業社会貢献担当者への講習など)	3 2 1	
	3 シニア層・退職者層を対象としたプログラム・研修を開発し、実施している	3 2 1	
	4 地域の子育て支援を目的としたボランティア活動支援プログラムを開発・実施している	3 2 1	
	5 当事者支援・当事者グループ支援のための活動プログラムを開発・実施している	3 2 1	
	6 講座・研修・プログラムの終了時には、アンケート調査や参加者との反省会を行い、その意見やニーズを次の開催の参考として、実施している	3 2 1	
ステップ	7 学生・若い世代向けの活動プログラムを開発・実施している	3 2 1	
	8 企業・労働組合、学校、地域諸団体において、同じボランティア・市民活動を進める仲間としての立場から、ボランティア・市民活動への参加を支援する「ボランティアアドバイザー」の養成を行っている	3 2 1	
	9 福祉救援ボランティア活動に関するマニュアル・指針が作成されている	3 2 1	
	10 防災・災害救援・福祉救援ボランティアに関する動きや情報を、地域住民に提供している	3 2 1	
	11 地域住民に対する、防災・災害救援・福祉救援ボランティアに関する研修を行っている	3 2 1	

ジャンプ	12	<p>地域の状況や特性に応じた活動プログラムを実施している (例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における国際理解と在日外国人の現状把握・交流支援プログラム ・ホームレス支援プログラム ・児童虐待防止の取り組みなどのプログラム ・不登校児童支援プログラム ・障害児・者支援プログラム ・精神障害者支援プログラム ・高齢者生きがい支援プログラム <p>(具体的に取り組んでいるプログラムの内容)</p> <p>()</p>	3	2	1	
	13	地域の大学・教育機関と連携・協働し、市民が福祉やボランティア・市民活動について学ぶ機会を提供している	3	2	1	
	14	ボランティアアドバイザーの連絡協議会が設置されている	3	2	1	
	15	ボランティアアドバイザーへの研修を行っている	3	2	1	
	16	防災・災害救援・福祉救援ボランティアに関する研修を、関係機関・NPOなどとプログラムを協働で立案し、実施している	3	2	1	
	17	<p>プログラム・研修の策定・実施にあたっては、地域の多彩なグループ・団体の協力を得ながら進めている。 (例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいいいききサロンを、学校・商店街・当事者団体などと、協働して運営・実施 ・まちの活性化、魅力づくりを目的としたプログラムの実施 ・専門性を活かした活動プログラム(痴呆性高齢者ケア、ピアカウンセリング等)の開発と支援者、協力者との連携) 	3	2	1	
合計点数					点	17～22 C評価 23～38 B評価 39～51 A評価

多彩なプログラムの実施 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

福祉教育(11項目)

<ポイント>

新教育課程の実施や、子どもたちの休日増に対応して、子どもたちの福祉の学びを支援することが必要です。また住民向けの福祉教育に関する取り組み(例:福祉教育を支援するサポーター養成・講座の展開など)も求められています。

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 学校・教員からの福祉教育に関する問い合わせに対して、貸与できる機材・教材が準備されている	3 2 1	
	2 センター担当職員と、地域の学校関係者・教育委員会関係者との連絡窓口が開かれている(明確になっている)(例:メーリングリスト・電話・その他)	3 2 1	
	3 地域の学校関係者・教育委員会関係者に対して、センターの活動内容・事業を定期的に紹介している	3 2 1	
ステップ	4 学校・教員からの福祉教育に関する問い合わせに対して、機材・教材の貸与だけではなく、センターとして独自のプログラムを提示し、アドバイスをすることができる	3 2 1	
	5 地域の学校・教員・教育関係者と定期的に福祉教育に関する連絡会を開催している(年数回程度~月1回程度)	3 2 1	
	6 地域における福祉教育を積極的に推進している(地域の子どもを対象にしたプログラム、保護者も含めた多彩なプログラムの実施)	3 2 1	
	7 地域の社会福祉施設に対して、福祉教育に関わる情報提供を行っている(施設関係者との連絡会開催など)	3 2 1	
8 ボランティア協力校指定終了後、地域の福祉教育を進めるための継続的な取り組みの検討を行っている(行った)	3 2 1		

ジャンプ	9	地域の福祉教育関係者・NPO関係者・障害当事者・団体グループ等と連携・協働して、独自の福祉教育プログラムを作成している	3	2	1		
	10	福祉教育に携わる人材養成・登録を進めている(アドバイザー・協力員・サポーター)	3	2	1		
	11	地域の学校(小・中・高)、大学などと、教育に関わるさまざまな人々、団体が連携して、子どもたちの学習・活動を支援するネットワークがある	3	2	1		
合計点数					点	11～16 17～26 27～33	C評価 B評価 A評価

福祉教育 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましよう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

小地域・まちづくり活動(10項目)

<ポイント>

小地域のビューロー・拠点を展開しながら、小地域の相互扶助的な活動のコーディネート、地縁系団体（自治会、町内会など）の連携・調整、また住民への学習活動・まちづくり活動の推進が求められています。ボランティアセンターは、人材・情報を提供するとともに、居住地だけではできない活動の支援（場所・機材・その他）を行うことも必要です。

到達度 目標		チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1	校区・地域単位で、ボランティアに関する情報提供を行っている	3 2 1	
	2	校区・地域単位で、地域住民を対象とした「ボランティアスクール」「講座」を定期的で開催している	3 2 1	
	3	校区・地域のボランティアに関するニーズ調査を行っている	3 2 1	
	4	校区・地域単位で、地域住民の福祉ニーズ、活動ニーズを把握し、サービス提供へとつなぐ仕組みを作っている	3 2 1	
	5	小地域活動を進める上で、民生委員・児童委員など、活動の中心となる人と、協力を得ながら進めている	3 2 1	
ステップ	6	ボランティアの協力を得ながら、小地域で「ふれあい・いきいきサロン」(高齢者・精神障害者・子ども向けなど)を実施している	3 2 1	
	7	ボランティアの協力を得ながら、配食・食事サービス、訪問活動、移送サービスなど、日常的な生活支援活動を行っている	3 2 1	
	8	小地域活動を進める上で、専門家・専門職との相談・連携体制をとっている	3 2 1	

ステップ	9	<p>小地域活動を進める上で、サービス利用者・対象者に対するプライバシーの保護には、十分な配慮をしている</p> <p>(例示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用者の情報をボランティア・地域住民に知らせる際に、本人への了解を求めたり、一定の基準を設けている ・必要最低限の情報のみ提供できる仕組みが整っている ・ボランティア・地域住民に対して、プライバシー保護の重要性を喚起している ・社協ボランティア・市民活動センター内でも、情報管理の仕組みを整えている 	3	2	1		
ジャンプ	10	<p>小地域活動を進める上で、各地域のボランティアグループの実態を把握した上で、活動を希望する個人を紹介し、希望者にあった活動・団体を紹介するよう考慮している</p>	3	2	1		
合計点数						点	10～16 C評価 17～22 B評価 23～30 A評価

小地域・まちづくり活動 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

地域の多彩な団体との協働・プラットフォーム提供(14項目)

<ポイント>

社会福祉協議会の公共的な特性を活かし、さまざまな人々・団体が、協働して地域の課題解決にあたることのできる共通のルール、システムの提供が求められています。また協働で課題解決を進めるためには、互いの組織のミッション(使命)・活動形態などを認め合った上で、協働のルールをふまえて進める必要があります。

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 地域のNPO・市民活動団体の活動を把握している (団体数・主な活動内容、活動頻度)	3 2 1	
	2 地域のNPO・市民活動団体に、助成情報の提供している	3 2 1	
	3 地域のNPO・市民活動団体の活動を支援する仕組みを持っている(連絡会の開催など)	3 2 1	
	4 地域のNPO・市民活動団体との情報交換を定期的に行っている	3 2 1	
	5 センターの実施する行事・イベントにおいて、ボランティア団体・グループだけではなく、NPO・市民活動団体への参加呼びかけ・協力を得ている	3 2 1	
ステップ	6 センターとして、既存のボランティアグループ・団体に限らず、NPO・市民活動団体への支援を進めることが、社協組織(理事・管理職・職員)として共有されている	3 2 1	
	7 名称を「ボランティア・市民活動センター」とするなど、ボランティア活動だけでなく、NPOも含めた市民活動・当事者活動など幅広く支援していくことを内外に明らかにしている	3 2 1	
	8 自らのセンターだけでは実施できない連絡会議・研修・イベントなどについて、近隣のセンターと、協働で事業を実施している	3 2 1	
	9 地域のNPO・市民活動団体と、具体的な事業を協働で実施している	3 2 1	

ジャンプ	10	ボランティア・ボランティアグループ・NPOが、協働して地域の多様なニーズに応えることのできるサービス提供の場づくりを、センターが担っている	3	2	1		
	11	ボランティア・ボランティアグループ・NPOが、協働して地域の多様なニーズに応えることのできるサービス提供の仕組み・場を、近隣のセンターと協働して設置・連絡調整している	3	2	1		
	12	災害発生時にいち早く組織的、効果的な支援活動ができるよう、行政・地縁組織・ボランティア・NPO・協同組合・企業・労働組合などと、防災・災害支援ネットワークを設立し、連絡調整や日常的な連携を進めている	3	2	1		
	13	企業・労働組合と、各企業間がセンターと協働して、ボランティア活動を推進するためのネットワークがある	3	2	1		
	14	地域のNPO・市民活動団体と、具体的な事業を協働で実施している場合、センターが設定する運営ではなく、各団体が対等の立場で運営し、事業を実施している (例示) ・参加団体すべてが役割を担う ・自由に発言できる会議の場づくりをしている ・事務局は結論を押し付けたりお膳立てすることなく、議論の過程を大切に運営している	3	2	1		
合計点数					点	14～24 25～34 35～42	C評価 B評価 A評価

地域の多彩な団体との協働・プラットフォーム提供

チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

チェックリスト・PART 2

センターの運営体制づくり

財源（8項目）

情報公開（5項目）

広報宣伝（11項目）

運営委員会と運営体制（8項目）

職員（15項目）

事務所・活動スペース・登録（11項目）

財源(8項目)				
<p><ポイント> ボランティア・市民活動推進のための財源を幅広く確保し、また費用負担については市民に理解を求め、適切な費用負担を求めることも必要です。</p>				
到達度 目標		チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1	センターの運営コストについて、常に適切な執行を心がけている(水光熱・消耗品など)	3 2 1	
	2	資料代・郵送料の実費などは、市民に負担を求めている(求めることを検討している)	3 2 1	
ステップ	3	センターとして、共同募金配分金を活用した先進的な事業を推進している (具体的な事業内容) 〔 〕	3 2 1	
	4	地域住民向けのセンター事業(イベント・研修)を進める際、地域の企業・関係機関から協賛を得て事業を進めている(進めたことがある)	3 2 1	
	5	センターの運営経費・人件費については、地域福祉を推進する社協としての必要不可欠な経費であることを、社協組織(役職員間)として共有している。また共有するための方策(会議・研修)を講じている	3 2 1	
	6	センターの運営経費・人件費について、地域福祉を推進する必要不可欠な経費であることが行政にも理解され、一定の委託あるいは補助を、社協の主体性を活かしつつ受けている	3 2 1	
ジャンプ	7	ボランティア活動推進のための基金が設置され、有効に活用されている(計画がある)	3 2 1	
	8	企業や財団等に対して事業(プログラム)を提案し、資金提供を働きかけ、センターの事業を実施している(したことがある)	3 2 1	
合計点数			点	8～10 C評価 11～18 B評価 19～24 A評価

財源 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

情報公開(5項目)

<ポイント>

ボランティアセンターの情報公開を進めることは、組織・活動の透明性を高めるとともに、市民・民間(企業・財団など)からの積極的な支援も得られやすくなります。

到達度 目標		チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1	センター事業の概要・事業報告・事業計画について、適切な方法(情報誌・ホームページ)で住民・関係者が閲覧できる	3 2 1	
ステップ	2	センター事業の事業報告書は、具体的な数値(利用者数・相談件数、提供できる情報の数量)を明記して、事業成果をアピールしている	3 2 1	
	3	センター事業の決算書・センター運営委員会概要・予算が、適切な方法(情報誌・ホームページ)で閲覧できる	3 2 1	
ジャンプ	4	センター事業について、社協組織(役職員)としての合意を得ながら、事業評価に関わる指針・指標を開発し、その評価にもとづく結果を地域住民に公開している	3 2 1	
	5	センターの事業について、センター運営委員会(または運営委員会の部会・プロジェクトチーム)において、住民・ボランティア・NPO・関係機関と自己評価を行う仕組みがある	3 2 1	
合計点数			点	5～7 C評価 8～11 B評価 12～15 A評価

情報公開 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

広報宣伝(11項目)

<ポイント>

ボランティアセンター事業に対する市民の参加を得るためにも、積極的な広報活動が重要です。ホームページ、機関紙誌の活用を通じて、積極的な広報宣伝を図りましょう。

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 センターを紹介するパンフレット・チラシを作成している	3 2 1	
	2 社協情報誌に、ボランティア・市民活動やセンターを紹介するコーナーを常時設けている	3 2 1	
	3 センター独自の情報誌を作成し、関係機関・住民に配布している	3 2 1	
	4 社会福祉協議会またはセンターとしてのホームページがある	3 2 1	
ステップ	5 創意工夫の上、センター独自の情報誌を作成している(ボランティアニーズ把握のための返信用はがきを折り込む、など)	3 2 1	
	6 ホームページにボランティア募集情報や地域の福祉・ボランティア情報を掲載し、随時(少なくとも1週間に1回)は内容を更新している	3 2 1	
	7 センターが関わる催し、イベント実施の際には、マスコミ・報道機関への働きかけを行っている	3 2 1	
ジャンプ	8 情報誌の作成(または配布)にあたっては、ボランティアの参画・協力を得ている	3 2 1	
	9 センター独自の情報誌は、地域の拠点(商店・企業・駅・公共機関)に配置している	3 2 1	
	10 ホームページ作成にあたっては、ボランティアの協力を得て、ボランティアの主体性を活かしている	3 2 1	
	11 ラジオ(コミュニティFM等)・テレビ(ケーブルTV等)・新聞(地域紙等)の媒体で、定期的にセンター(社協)の広報宣伝を行っている	3 2 1	
合計点数			11～15 C評価 16～24 B評価 25～33 A評価

広報宣伝 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

運営委員会と運営体制(8項目)

<ポイント>

市民に開かれたセンター運営を図るためにも、ボランティアセンター運営委員会の役割が重要です。多彩な市民の参画を得て、事業の計画・実施・評価を行うことのできる体制づくりを進めることが必要です。

到達度 目標		チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1	センター運営委員会が設置されている	3 2 1	
	2	センター運営委員会は、定期的に(年2回以上)開催されている	3 2 1	
	3	センター運営委員会の機能・役割が諸規程で明確に位置付けられている	3 2 1	
ステップ	4	センター運営委員会に、地域の教育関係者が参画している	3 2 1	
	5	センター運営委員会には、地域のNPO・市民活動関係者、企業・労働組合関係者、まちづくりに携わる関係者などが参画している	3 2 1	
ジャンプ	6	センター担当理事が決められ、センターの運営に関して一定の権限を持っている	3 2 1	
	7	センター運営委員会には、特定の課題について検討を進めることができる、専門分科会・部会が設置されている	3 2 1	
	8	センター運営委員改選に際して、公募制を取り入れている	3 2 1	
合計点数			点	8~13 C評価 14~19 B評価 20~24 A評価

運営委員会と運営体制 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

職員(15項目)

<ポイント>

ボランティア・市民活動に関わる業務では、多彩な人々との協働・ネットワークが求められます。地域で築いてきたネットワークが職員の異動等で切れてしまうことのない体制づくりが必要です。あわせて、組織として職員の力量・専門性を高める努力も求められます。

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 常勤・非常勤に関わらず、ボランティアコーディネーターが配置されている	3 2 1	
	2 センター職員が不在の際に、ボランティアに関する問い合わせに対応できる職員がいる	3 2 1	
	3 センター職員の視野を広げるため、会議・研修・学習会への参加を積極的に奨励し、その成果を職員間で共有している(例 報告会開催、回覧など)	3 2 1	
	4 センター職員に対して、先進地域・社協の視察を定期的に(年1回以上)実施し、その成果を職員間で共有している	3 2 1	
	5 窓口・電話による相談について、その内容を職員間で共有できる仕組みがある(記録簿・データベース)	3 2 1	
	6 地域のボランティアに関して豊富な知識を有する職員がおり、日常業務の中で適切な引継ぎが随時行われている	3 2 1	
ステップ	7 ボランティアコーディネーターまたはセンター担当者は常勤である〔専任・兼任〕(いずれかに を)	3 2 1	
	8 相談を受けて解決が難しい場合、適切な専門家・専門技術を持つ方へつなぐことができる(建築・商業・農業・まちづくりなど)、またそのつながりがある	3 2 1	
	9 センター職員が、地域のニーズ・課題を洗い出し、方法を提案すること、またそれらの提案を職員間で検討・議論できる風土がある	3 2 1	

ジャンプ	10	センター職員(ボランティアコーディネーター)が、日常的に受け止めたニーズを通して、新たなボランティア活動の開発・展開につなげている(つなげたことがある)	3	2	1		
	11	センター職員が常に地域に出かけて、ニーズ・情報を把握できるよう、環境整備を図っている(例示:各職員への携帯電話貸与など)	3	2	1		
	12	センター職員は、社協と住民をつなぐ最前線の職務であることが社協組織(役職員)として共有されている	3	2	1		
	13	センター職員の異動があることを前提に、地域でつながりのある人々との関係を保つくふうを行っている(同行紹介・あいさつ・会議への同席)	3	2	1		
	14	センターには、専任の所長が配置されている	3	2	1		
	15	センター所長には、社協職員以外の民間人を登用している(常勤・非常勤に限らず)	3	2	1		
合計点数					点	15~23 24~34 35~45	C評価 B評価 A評価

職員 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

事務所・活動スペース・登録(11項目)

<ポイント>

ボランティア・市民活動センターとして機能するためには、センターのハード・環境面の整備も必要です。さまざまな活動者が自然に集まり、センターとしても豊かなプログラム、ネットワークづくりの素地となります。(なお、記入にあたりセンター単独のスペースがない場合、社協窓口の状況を記入してください)

到達度 目標	チェック項目	自己評価	みなさんのセンター 状況・討議メモ
ホップ	1 センターに来訪者が入りやすく、親しみを持てるような工夫をしている(看板・ボランティア・市民活動センターの位置・装飾)	3 2 1	
	2 ボランティアに関わる資料、チラシ、パンフレットが整理され、来訪者が自由に閲覧できるようになっている	3 2 1	
	3 ボランティア・市民活動相談窓口のスペースがある	3 2 1	
	4 相談窓口は週5日以上開設されている	3 2 1	
ステップ	5 ボランティア・来訪者が自由に使用できるスペースがある	3 2 1	
	6 ボランティアが自由に使用できる機材・備品がある	3 2 1	
	7 ボランティア・市民活動を理解・推進するための資料(書籍・ビデオ)が用意され、貸し出しを行っている	3 2 1	
ジャンプ	8 アフター5も相談窓口を開設するようにしている(おおむね7～9時頃まで)	3 2 1	
	9 相談窓口は土曜・日曜も開設されている(またはいずれか1日)	3 2 1	
	10 ボランティア・市民活動センターの支所・活動拠点(ランチ)を設置し、身近な地域でボランティア・市民活動の推進を図れるようにしている	3 2 1	
	11 ボランティアの「登録」に関して、必要な見直しを行い「利用登録」「保険登録」「ボランティア登録」など、意味を明確にした名称にあらため、実施している	3 2 1	
合計点数			11～17 C評価 18～27 B評価 28～33 A評価

事務所・活動スペース・登録 チェック結果を受けて

1. 本項目における、みなさんのセンターの「強み」は何だと考えますか

2. 本項目における、みなさんのセンターの「弱み」は何だと考えますか

3. 今後のみなさんのセンター事業の計画・検討をしてみましょう

すぐ取り組めるもの

数年（2～3年）の間でできるもの

長期的な視点で検討するもの

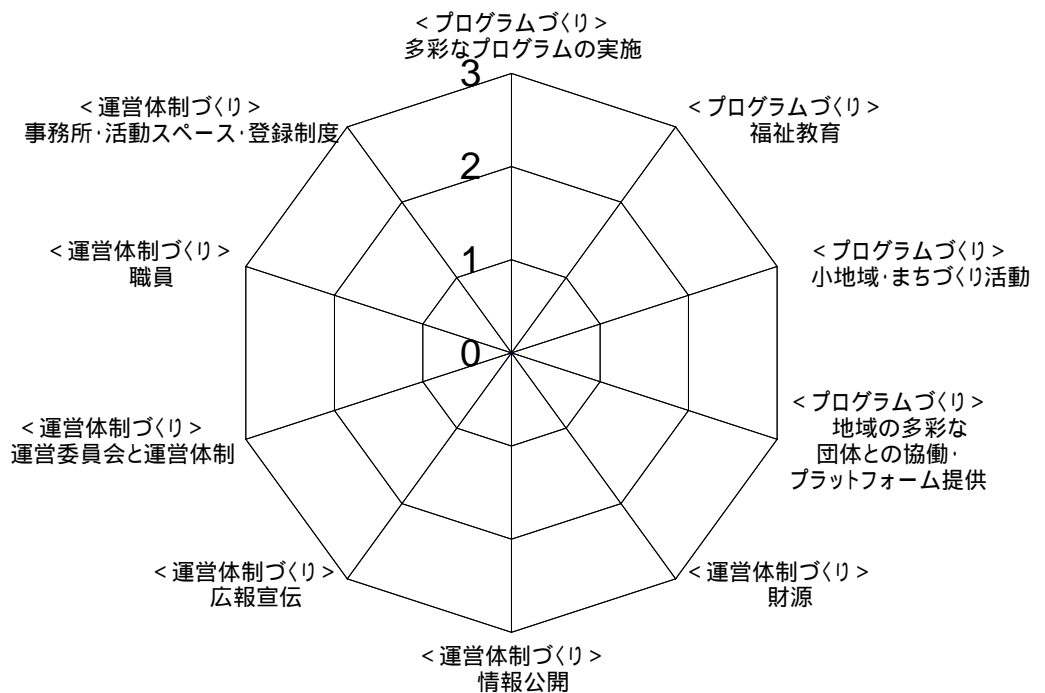
評価結果の確認

すべての項目の記入が終わりましたら、記入した回答番号をもとに、最後にレーダーチャートを書いてみましょう。

レーダーチャートを記入することによって、どの項目はよく取り組めているのか、どの項目が今後の課題であるのか、はっきりしてきます。

不十分な項目については、どうすれば改善できるのか、職場内、またはボランティアセンター運営委員会等にも提案し、検討してみてください。

「チェックリスト」結果 レーダーチャート
PART1 センター活動推進に向けた具体的なプログラムづくり
PART2 センターの運営体制づくり
2つの視点から評価・検討してください



評価結果の確認（レーダーチャート） 取り組み結果メモ

前ページのレーダーチャートの結果をもとに、職員間で話し合った内容・今後の検討課題等について記入します。

本チェックリストの作成にあたっては、各都道府県・指定都市、市区町村社協のみなさんにご協力をいただきました。また作成にあたっては『「第2次ボランティア・市民活動センター5か年プラン」、「社協ボランティア・市民活動センター強化・発展の指針」チェックリスト検討会議』を開催し、下記のみなさんから貴重なアドバイスをいただきました。謹んでお礼申し上げます。(敬称略/役職名は2004年3月現在)

〔市区町村社会福祉協議会 ボランティアセンター〕

・枝村 珠衣氏

(東京都・立川市社協 市民活動センターたちかわ/ボランティアコーディネーター)

・福島 明美氏

(長野県・辰野町社協・辰野町ボランティアセンター/ボランティアコーディネーター)

〔都道府県・指定都市社会福祉協議会 ボランティアセンター〕

・鳴海 孝彦氏

(青森県社協 県ボランティア・市民活動センター 副所長)

・馬場 正一氏

(兵庫県社協 ひょうごボランタリープラザ 事業部副部長)

・志藤 修史氏

(京都市社協 ボランティア・市民活動部 副部長)

地域福祉推進のための
「ボランティア・市民活動センター」自己評価『チェックリスト』2004

2004年3月発行

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

全国ボランティア活動振興センター

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

電話 03-3581-4656 FAX 03-3581-7858